

環境白書の発刊にあたって



昨年、世界の年間平均気温が観測史上最も高い値を記録しました。京都府でもこれまで先進的な地球温暖化対策を進めてまいりましたが、大雨や干ばつ、熱波・寒波等が世界各地で頻発しており、温暖化をはじめとする地球規模での気候変動の影響はなおも深刻な状況です。

異常気象をもたらす温暖化への危機感が高まる中、昨年末にパリで開催された「COP21」において、2020年以降の新たな枠組みとなる「パリ協定」が採択されました。温室効果ガスの排出削減目標に法的拘束力はないものの、これにより発展途上国をも含む全ての国で温暖化対策を前進させていくことになります。京都議定書に

続くこの協定により、今後の地球温暖化対策の大枠ができたと言えるでしょう。

京都府では、京都議定書誕生の地として京都版 CO₂ 排出量取引制度等の先進的な地球温暖化対策を進めてきました。また、27年7月には「京都府再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」を制定し、温室効果ガスの排出抑制のみならず、災害時も想定したエネルギーの安定的確保、地域社会・経済の発展をも目指し、再生エネルギーの導入促進に取り組んでいるところです。

そのほか、メタンハイドレートや天然ガス等の新しいエネルギーをめぐる取組、3月に誕生したばかりの「京都丹波高原国定公園」や世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」の豊かな自然環境の保全と利活用、放射線監視体制や不法投棄対策の強化等、多岐にわたる環境保全対策を展開しています。

この白書は、京都が長い歴史の中で育んできた知恵と文化を活かして、持続可能な社会の新しいモデルを京都から創造・発信していくために、地球温暖化対策やエネルギー政策、循環型社会の形成、生物多様性の保全をはじめとする取組を紹介し、環境の大切さについて考えていただく材料となることを期待して発刊するものです。

多くの皆様に御活用いただき、京都府の環境政策に理解を深めていただきますとともに、環境を一緒に守り育てる取組を進めていただく際にお役に立てば幸いです。

平成 28 年 3 月

京都府知事 山田 啓二